

## 【表紙・裏表紙解説】 あいち国文第10号

表紙、裏表紙写真は『岩屋の草子』（愛知県立大学附属図書館蔵）。

写本。折本。29.4×22.5。大本。全一卷。成立は室町末から江戸極初期か。

別名、『岩屋の物語』『対の屋姫物語』ともいう。公家小説、継子物。

奈良絵本。室町物語のひとつ。

内容としては以下の通りである。

堀川中納言と白川の姫宮の間に生まれた姫（対の屋姫）は、母の死後、父の任官に伴い、父や継母、その連れ子とともに大宰府に向かう。道中、明石にて継母の姦計により殺害されそうになるが、姫のあまりの美しさ、気高さに、殺害の命を受けた乳母子は姫を殺せず、姫は沖の孤島に置き去りにされる。実母の霊の励ましと観音信仰によって明石の海士に救われ、岩屋で養われる。伊予からの帰途にあった二位の中将に見つけられ、京に連れ戻

される。中将の両親は、海士の娘を中将にあきらめさせようとするが、姫の知識や管弦の才能に触れ、教養や芸能に秀でた女性として結婚を認める。のちに、中将と姫君との間に生まれた娘は女御となり、一族は子孫繁栄をみる。ただし、愛知県立大学本の内容は物語の途中で終わっている。

国内外に卷子本と冊子本が存在しているが、本資料は冊子から折本に仕立てなおされており、非常に珍しいといえる。書入れや印記はあるものの、詳細は不明。

愛知県立大学貴重書コレクション (<http://opac1.aichi-pu.ac.jp/kicho/index.html>) で閲覧することができる。

参考文献・新日本古典文学大系64『室町物語集 上』（岩波書店、一九八九）、愛知県立大学所蔵貴重書展『和本の世界』展示資料解説（二〇一〇）。

（文責：熊澤美弓）